

区モデル]を更に進化させて実施します。

なお、5歳から11歳の小児への接種についても、円滑に実施出来るよう準備を進めます。

#### ④経口治療薬への期待

濃厚接触者等の予防薬として、抗体カクテル療法に用いる薬剤の使用が特例承認されたのに続き、現在、経口治療薬の治験が実施されています。自宅での服用で、重症化リスクを下げるものであり、一日も早い承認を期待しています。

#### ●困窮する区民・事業者の支援

困窮する区民を対象とする緊急小口資金など貸付の申請期限等の延長、住居確保給付金、生活困窮者自立支援金、住民税非課税世帯に対する「プッシュ型」給付金の支給等については、制度の詳細が決定され次第、速やかに実施出来るよう、準備を進めていきます。

0歳から高校3年生までの子どもへの5万円の給付に速やかに着手し、残る5万円相当のクーポンは、国の事業スキーム決定を待って配付します(3面参照)。

介護、保育、幼児教育など現場で働く方々の収入の引き上げについては、今後示される実施方法等に基づいて対応します。

また、区が独自に取り組んできた、事業者に対する特別貸付及び借換え特別貸付制度については、既に国に先立って今年度末までの延長を決定しており、引き続き、事業継続の下支えとなる資金繰りを支援していきます。

### 教育振興基本計画の改定

本年3月に改定した練馬区教育・子育て大綱に合わせて、教育振興基本計画を見直します。大綱の教育目標である「夢や目標を持ち、困難を乗り越える力を備えた子どもたちの育成」の実現に向けて、教育の質の向上、家庭や地域と連携した教育の推進、支援が必要な子どもたちへの取り組みの充実を今後5年間の目標とします。

来月素案を公表し、区議会並びに区民の皆様のご意見を頂いたうえで、年度内に成案とします。

### 映像∞文化のまち構想、練馬区立美術館再整備基本構想の策定

昨年2月に素案を公表した「映像∞文化のまち構想」をこのたび策定しました。令和5年前半にオープンする予定のハリポッター・スタジオツアー施設を、区の新たな映像文化の拠点と位置付けるとともに、オープンイベントの開催、子どもの頃から映像文化を体験する機会の充実など、大学や企業と連携した取り組みを新たに盛り込んでいます。今後、構想に基づき、映画、アニメ、漫画など、区の映像文化資源を活かし、ソフト・ハードが一体となった夢のあるまちづくりを進めていきます。

練馬区立美術館は、昭和60年に開館し、優れた企画展等により好評を博してきましたが、7,000点を超えた収蔵作品の活用や大規模企画展の開催にはスペースが不足しています。

練馬独自の新しい美術館を創造するため、美術館再整備基本構想策定検討委員会からの提言をもとに、「まちと一体となった美術館」「本物のアートに出会える美術館」「併設の図書館と融合する美術館」の3つをコンセプトとする基本構想を策定します。

敷地を、サンライフ練馬の所在地に拡張して全面改築し、美術の森緑地と商店街・駅へと続く動線を一体化して、美術館を核とした街並みを実現します。来月素案を公表し、区議会並びに区民の皆様のご意見を頂いたうえで、年度内に成案とします。

### 改定アクションプラン、公共施設等総合管理計画(実施計画)の策定

区はこれまで「第2次みどりの風吹くまちビジョン」に基づき、区独自の幼保一元化施設「練馬こども園」、保育所待機児童ゼロ作戦、都区合同の児童虐待対応拠点、街かどケアカフェ、防災まちづくり推進地区、世界都市農業サミット、練馬薪能など、様々な「練馬区モデル」を構築し、実現してきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、経済・財政状況など、区政を取り巻く環境は大きく変化し、区民生活も大きな影響を受けています。

第2次ビジョンに定める基本理念や区を目指す姿は、コロナ禍においても大きく変わるものではありませんが、社会情勢の変化を踏まえた見直しが必要です。引き続き、区民生活を支える上で必要な施策を充実するとともに、この間に生じた新たな課題に対応するため、4年度から5年度の2カ年の取り組みを定める「改定アクションプラン(素案)」を取りまとめました(4面参照)。6つの施策の柱に沿って、特徴的な取り組みを申し上げます。

#### ●子どもたちの笑顔輝くまち

区はこれまで、待機児童ゼロ作戦を展開するとともに、「練馬こども園」を創設するなど、全国トップレベルの保育所定員増を実現し、本年4月に待機児童ゼロを達成しました。引き続き、保育定員の拡大に努め、待機児童ゼロを継続していきます。また、マイナポータルを活用して、スマートフォンやパソコンから入園申込が出来るようにします。希望する子育て支援サービスを簡単に探し、申し込むことが出来る「(仮称)ねりま子育て支援アプリ」の開発に取り組みます。

昨年7月、都内で初めて、練馬区と東京都が合同で設置した虐待対応拠点は、着実に成果を上げています。今後、都区連携による児童相談体制の更なる強化を目指します。

教育分野では、中学1年生を対象に、実践的な英語を体験する夏季イングリッシュキャンプを開始するとともに、小学校高学年には技能検定を導入して、英語力を高めます。

#### ●高齢者が住みなれた地域で暮らせるまち

団塊世代の全てが後期高齢者となる令和7年に向けて、介護が必要になっても住みなれた地域で安心して暮らせるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的、継続的に提供される地域包括ケアシステムを確立しなければなりません。

これまで区は、介護保険施設等の整備、在宅サービスの充実に積極的に取り組み、特別養護老人ホーム、都市型軽費老人ホーム、看護小規模多機能型居宅介護の施設数は、既に都内最多です。在宅での生活が困難な方が、希望する時期に入所出来るよう、引き続き、特別養護老人ホームの増設・増床に取り組むほか、都市型軽費老人ホームなどの整備を進めます。

交流、相談、介護予防の拠点となる街かどケアカフェを、地域サロンとの協働や敬老館の機能転換などにより、7カ所増設します。

地域包括支援センターは、より身近で利用しやすくなるよう、区立施設等への増設や移転を進めます。

#### ●安心を支える福祉と医療のまち

障害者の高齢化・重度化、家族の高齢化が進むなか、障害特性やライフステージに応じたサービスの重要性が増しています。光が丘病院や区内特別養護老人ホームの空床を活用して、ショートステイを開始します。障害者一人ひとりの自立した地域生活を実現するため、「(仮称)練馬区障害者の

意思疎通に関する条例」を制定し、「ICTを活用した遠隔手話通訳設置事業」「コミュニケーション理解促進事業」などを順次実施します。

新型コロナウイルス感染症が、生活・就労・子育てに与えた影響など、ひとり親家庭の状況についてニーズ調査を実施し、自立に向けた支援策を充実します。ヤングケアラーを支援するため、福祉、子育て、教育など各部門が連携した取り組みを行います。

コロナ対策の継続と感染症発生時の連携体制を強化するため、「新型インフルエンザ等医療対策連絡会」を、「(仮称)練馬区感染症ネットワーク会議」に改組します。区、区内病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会に、新たに福祉施設、教育施設等を加え、連携して情報共有や相互支援のあり方を検討していきます。

順天堂練馬病院において、新興感染症等拡大時の医療体制や三次救急レベルの医療機能の整備、災害時の応急処置等の対応スペースなどの確保を促進します。

#### ●安全・快適、みどりあふれるまち

地域の災害リスクに応じた攻めの防災を進めます。木造住宅の密集する地域では、密集住宅市街地整備促進事業に加え、区独自に指定した「防災まちづくり推進地区」で、道路の拡幅、建築物の不燃化などを推進します。一般緊急輸送道路の沿道建築物の耐震化を促進し、避難や救助、救援活動のルート確保を進めます。

石神井川流域の、特に水害リスクの高い地域にある特別養護老人ホームなど要配慮者利用施設については、避難確保計画の作成や訓練の支援に取り組みます。地域の皆様と協働で、引き続き「地域別防災マップ」を作成し、これを活用した訓練を実施します。

西武新宿線の連続立体交差化は、本日、都市計画が決定告示されました(5面参照)。一日も早い事業着手を目指し、東京都や鉄道事業者、沿線区市と連携して取り組んでいきます。大江戸線延伸の早期事業化に向けて、駅・トンネルの構造、車両の留置施設などについて、東京都との協議を加速します。石神井公園駅周辺では、引き続き、駅南口西地区の市街地再開発事業が円滑に進むよう、準備組合の取り組みを支援します。

練馬のみどりを未来へつなぐため、みどりの拠点の整備や区民の皆様との協働による保全に取り組みます。稲荷山公園、大泉井頭公園の整備に向けた検討を進め、石神井松の風文化公園の拡張に着手します。練馬城址公園については、区の求める機能を備えた公園の実現に向け、引き続き東京都や関係者と調整していきます。

2050年までの脱炭素社会の実現に向け、新たな環境基本計画を策定します。再生可能エネルギーの導入促進、先進技術の活用、更なるごみの減量・資源化など、区民・事業者と協働して、総合的な環境施策を展開していきます。

#### ●いきいきと心豊かに暮らせるまち

事業活動のデジタル化が急速に進んでいます。区内事業者を支援するため、練馬ビジネスサポートセンターでの専門相談、融資制度の新設などを行います。練馬区商店街連合会と連携して、「(仮称)スマート商店街プロジェクト」を展開するとともに、複数の空き店舗を活かした商店街の賑わいをサポートします。

「(仮称)全国都市農業フェスティバル」の5年度開催に向けて、準備を進めます。都市農業に先進的に取り組む国内都市から、農業者や行政関係者を招聘し、都市農業の魅力の発信、共有・共感に繋がるイベントを企画します。

農の風景育成地区に指定されている高松地区及び南大泉地区で、地域住民による農地保全活